校内研修計画

山梨市立山梨南中学校

１．学校課題

全体的にはしっかりと挨拶ができ、素直な生徒が多い。また、意欲的に学習に取り組む生徒が多い一方で、自分なりの言葉や図や表などを用いて表現する力や、自分で考え判断して問題解決を図ろうとする力、生徒自身が最適なツールを選び活用する力などは、まだ十分とは言えない状況が見られる。

２．研究主題

「場所を問わない学び、デジタルによる新たな学びの追求」

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用～

３．主題設定の理由

　２０１６年１２月の中央教育審議会答申を踏まえ、学習指導要領が改訂され、中学校では全面実施となって４年目となる。新学習指導要領については、学習する子どもの視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を見据えた改善が図られる。特に、子どもたちが「どのように学ぶか」に着眼して、学びの質を高めていくために、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善の取り組みがすでに進められており、山梨県においても学校教育指導重点に盛り込まれ、推進が図られている。

本校では９年前より「確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫」を研究主題として校内研究を進めてきており、今年度で１０年目を迎える。平成２８年度では授業の中での「やまなしスタンダード」の定着、特に、授業前のめあての確認や授業後の振り返りに重点を置いてきた。そして、平成２９年度では平成２８年度の研究に上積みするかたちで、「やまなしスタンダード」を意識しながら、言語活動を取り入れた授業などが実施されるようになってきた。また、平成３０年度は、言語活動を取り入れた授業に加えて、前年度までの研究であまり深まりが見られなかった活用・探求型の授業にも重点を置いた。令和元年度は、自主学習の質的向上をめざし、「学び方」について研究を進め、生徒たちの確かな学力の定着・向上を図り、令和２年度では家庭学習の取り組み方（クラスノートの実施、R.Gの時間を設定等）を全校で統一した。令和３年度は、ICT利活用に取り組み始めた。令和４、５年度では授業実践におけるICTの利活用について研究を進めた。令和６年度は、リーディングDX指定校として個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実をテーマに、前年度までの研究を継続し、更なる学力の定着と質的向上を目指した。そして今年度は、昨年度のクラウド活用を推進しながら、個人研究を充実させ、教員の個別最適な学びや協働的な学びを深めていきたい。

４．研究の具体的内容と方法

（１）全体研究会

　　 ・確かな学力の定着・向上を目指してクラウドを活用した効果的な学び方について研究する。

　　　　・タブレット端末の持ち帰りを推奨し、アプリを活用した家庭学習、ＧＵノートから授業改善の工夫につなげる研究を行う。

　　　　・DXの学習会を通して、個別最適な学びと協働的な学びの授業づくり、公務の効率化を推進、研究する。

　　　　・オンライン研修を受講し、公務の効率化を推進、研究する。

（２）教科別研究会

＜各教科＞　　※随時

＜分析部会＞　年１回（全国学力・学習状況調査の実施に合わせる）

　→　実施日未定

・全国学力・学習状況調査や県学力把握調査などの分析と対策を検討

→　その後、各教科で授業改善等に生かしていく。

（３）学年別研究会　※随時

・学びの質的向上を目指した学級・学年集団づくり

・Q-U検査(５月、１０月頃)の分析　→　個への対応、学級学年集団づくり

・キャリアパスポートの実践

（４）授業研究　年１回

（予定　２学期１１月or１２月　保健体育科　宮本教諭）

・指導主事の指導助言のもと、研究を進める。

（５）キーワードとして考えられるもの

　　　・個別最適化

　　　・協働的な学び

　　　・クラウド活用

　　　・アプリを活用した家庭学習

年間校内研修計画

研究主任　宮本　武彦

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究テーマ | 教科領域等 | 担当者 | 学年 | 授業の時期 | T・C要請 |
| 主題  「場所を問わない学び、デジタルによる新たな学びの追求」  　　　　　　　　　　　　～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用～ | ＜全体研究会＞  ①研究の方向性や研究主題等の確認  ②ICTを活用した意識授業実践  ③自主学習についての学習（ICTを活用した家庭学習の取り組み）  ④教育課程学習会の報告・共有  ⑤各種学力調査の分析結果の共有  ⑥一人一実践（管理職による参観と指導助言と先生方による授業の相互観察）  ⑦研究のまとめ | 宮本T | ２年 | １１月 | ○ |
| ＜教科別研究会＞  ①各教科の研究主題に迫る取り組み  ②各種学力調査の結果分析  ③ICTの利活用、情報交換  ④相互授業参観  ⑤３観点に伴う評価のつけ方  ⑥研究のまとめ | 全 | 全 |  |  |
| ＜学年別研究会＞  ①Ｑ－Ｕの分析  ②キャリアパスポートの実践  ③研究のまとめ | 全 | 全 |  |  |
| ＜個人研究＞  ➀個人でGoogle研修やセンター研修に申し込みスキルアップにつなげる。  ②研修の資料や学びをクラスルーム等で共有する。 | 全 | 全 |  |  |